

(公聴会公述人の意見)

1 4 . 渡良瀬川ブロック

○平成19年2月28日 (群馬県館林市)

○平成19年3月 7日 (栃木県足利市)

利根川水系河川整備計画 公述希望届出書(渡良瀬川)

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市町村			
1	50代	男性	栃木県	鹿沼市	<p>思川開発事業(南摩ダム)は、治水上も利水上も不要である。思川の河川整備計画では30分の1確率と聞か、そのために総貯水容量5千百万m3のダムは不要である。南摩川は年間流量がダム予定地で1千万m3程度の小河川である上、南摩ダムの集水面積は12km2しかないので、思川へ治水効果はあるはずがない。</p> <p>構想から42年を経て、首都圏の水需要は減少方向にあり、新たな水源開発は不要である。都は1994年に思川開発から撤退し、参画する栃木、埼玉、茨城、千葉の各県は余剰水源を抱えている。栃木県では県南部にその開発水を供給することになっているが、そのための広域水道施設計画は存在せず、単に栃木県が開発水源を抱えるだけの不要不急の事業である。思川開発では黒川と大芦川から導水する予定だが、それでも南摩ダムに水がたまる見込みはない。</p> <p>思川開発は鹿沼市南摩地区の貴重な生態系を破壊する。整備計画に思川開発を入れることは間違いである。</p>	<p>・南摩ダムの流域面積は12km2と非常に小さいので治水上ほとんど効果がない。</p> <p>・思川開発の目的は東京都の水不足の解消であったが、東京都はすでに思川開発から撤退し、ダム下流の他の自治体にも新規の水需要はない。今後人口が減少していくことは明らかであり、ますます水需要は減っていく。</p> <p>・南摩ダム建設により絶滅する恐れのある植物があるほか、オオタカなども危機にさらされる。</p> <p>・思川開発の目標利水安全度は5分の1であり、大きな渇水には対応できない。</p> <p>・地盤沈下は沈静化しており、栃木県が思川開発により表流水に転換する量の地下水を汲み上げるのをやめても、地盤沈下の防止に影響はない。</p> <p>・南摩ダムの貯水量は19年間のうち4年3ヶ月が5%未満となるという計算もあり、水収支が成り立たない。</p> <p>・無駄なダムをつくれれば財政を破綻させる。</p> <p>・思川開発が地域社会を崩壊させた。</p>	<p>思川開発事業は、南摩ダムと導水路の建設により思川流域及び利根川本川下流域の洪水被害の軽減を図り、また、河川の維持や既得かんがい用水などの取水に必要な水量の確保を図るとともに栃木県及び埼玉県などの新規都市用水の確保、異常渇水時の緊急水の補給を目的として、利根川水系思川の支川南摩川(栃木県鹿沼市)で建設を進めている事業です。</p> <p>洪水時には、ダムサイト地点で最大125m3/sの洪水を調節し、思川流域及び利根川本川下流域の洪水を低減します。</p> <p>思川開発事業では4県(埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約3m3/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約1m3/s(約30%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>南摩ダム建設にあたり、周辺自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策を実施します。</p> <p>地下水については、依然として関東平野北部を中心に地下水の汲み上げによる地盤沈下が発生する等の問題が生じており、これらを踏まえた各都県の水需要の計画に基づき「利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画の全部変更」(案)が策定されているところです。</p>

利根川水系河川整備計画 公述希望届出書(渡良瀬川)

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市町村			
2	60以上	男性	群馬県	太田市	<p>当改良区を中心に渡良瀬川沿岸地域は、裏作に麦作導入が多い地域である。したがって、農業用水の取水ピークが6月下旬となる。平成18年度より、草木ダム弾力的運用が開始されたが、河川整備計画の策定に当たってより実効性のあるものに位置付けられるようご配慮願いたい。</p> <p>また、当該改良区の取水口である太田頭首工は、将来計画河床で設置されており、前後の河川勾配等から耐砂が生じて苦慮しているところである。当方の、施設管理の点からもご配慮願いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はサラリーマン農家が多く、田植えがどうしても土日にならざるを得ない、水が不足するというようなことが起きているが、何とかしのいでいます。 ・各改良区は、用水管理を改良区末端で行っているのが実情で、都市化が進み、水田のダム的な機能が薄れると、一挙に排水が出てきますので、排水防災という観点での管理も相当のシェアを占めてくるのではないかと考えている。 ・渡良瀬川沿岸地域は二毛作地域であり、用水量のピークがちょうど6月下旬になる。 ・平成18年度から農業用水の取水のピークにも合った、草木ダムの弾力的運用が開始された。 ・河川整備計画の策定にあたり、より実効性のある草木ダムの弾力的運用を位置付けられるような計画になるようにご配慮頂きたい。 <p>・太田頭首工は、計画河床高に合わせて設置されているので、河川勾配の関係からか、頭首工の上流に堆砂が多くなり、維持管理に大変苦慮しているので、施設管理の点からもご配慮頂きたい。</p>	<p>草木ダムの弾力的運用は、独立行政法人水資源機構草木ダム管理所にて、平成18年度より3年間を目途に試行的におこなっており、ダムの管理並びに洪水調節等は、同管理所の所掌業務となりますので、引き続き利水者懇談会等の機会がある毎に皆様の要望は伝えていきます。</p> <p>基本的には、施設管理上支障がある場合には、施設管理者に維持管理をお願いしています。河川整備計画の目標流量を安全に流下させることができない区間においては、河道の流下能力向上対策として、堆積土砂等の河道掘削を実施していきます。</p>